おれんじニュース

No288

2014年3月号

2月9日、吹雪の中、弥山に向かう。五合目から眺めた三鈷峰方面。　田中静香さん撮影

今月号の記事	新しい仲間・黒岩山～上泉水・下泉水・島原散策・犬ヶ岳・大山・講演会

★集会・委員会のお知らせ★　山行の一歩は集会参加から				
	2014年3月	2014年4月	時　　間	場　　所
運営委員会	12日(水)	・日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館
全体集会	26日(水)	・日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館

黒岩山～上泉水～下泉水

黒岩山までは皆のぼりましたよ！！

犬ヶ岳・車のトラブルから始まった

朝から歩きましたよ
野峠迄。元気ですね～。

ツチグリ

犬ヶ岳の頂上
何人乗れた？

2014/3月の山行

部	技術研修部	自然保護部	山行部	ひまわり
月　・　日	3/2(日)	3/16(日)	3/22(土)	3/28(金)
山名(行事)	仰鳥帽子山 (元井谷コース)	西川内虚空蔵山 ～中里	黒河内連山 (山口県)	とけん山 橘神社
地　　図	頭地(熊本県)	長崎東北部・大村	小郡(山口県)	小浜(長崎県)
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	喜々津駅 8:30	諫早駅裏 6:00 西諫早駅 6:10	県営バスターミナル 8:20 口ノ津行き
難易度	中級	初級	初級, 中級	初級
帰着時間	20:00	14:34	20:00	17:00
歩行時間	4.5h	3ｈ	3.0～4.0h	2ｈ
交通手段	マイクロバス	JR＆徒歩	マイクロバス	島鉄バス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温　　泉	なし	なし	有り	有り
参加費	5000 円	交通費のみ	5000 円	交通費のみ
申込期限	定員になり次第	随時	定員になり次第	随時
集　　約	佐原	中里	田中	林
備　　考	冬の寒さに耐えて開いた、黄金の福寿草に出会えます。	山行を終えて多良見で美味しい物を食すと言う計画もありです。	四季感豊かで、低山ながら山口県屈指の展望をほこるルートを歩く。	牡蠣焼きを食し、昼食に今話題のチャンポンを食べると温泉はノーペイだって！。
感想文提出	3/12	3/26	4/2	4/8

技術研修部より

セルフレスキュー　　3月29日(土)　　西諫早駅9：30
　　4月28日(土)　　西諫早駅9：30

＊セルフレスキューは登山で事故を起こさない為の訓練です。

また、事故に対処する技術を身に付けます。

レスキューの心得があれば、事故予知能力が身に着き

事故を未然に防ぐことができます。

2014/4 月の山行

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部
月　・　日	4/20(日)	4/25(金)	4/27(日)
山名(行事)	由布岳(1583.3m)	吾妻岳(870m)	倉木山(1160m)
地　　図	別府西部	島原・愛野	別府西部・小野屋
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00 諫早駅裏 8:10	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	初級＆中級	初級	初級
帰着時間	19:00	17:00	16：10
歩行時間	4h、5h	3h	2.5h
交通手段	マイクロバス	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り
温　　泉	有り	有り	有り
参加費	5,000 円	1,000 円	5,000 円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集　　約	佐原	林	田中
備　　考	サクラソウを眺めましょう。お鉢めぐりも希望者はいきますよ。	ヤマツツジと自然交配したミヤマキリシマが美しいでしょう。	草原の花々が誘うのびやかな草大地です。新緑と春の花を楽しみましょう。
感想文提出	4/30	5/5	5/7

県連主催・第 49 回定期総会

2 月 23 日（日）　　代議員 3 名　　福岡さん、中里さん、松岡さんが出席です。
理事は鎗水さん。　　みなさん、おつかれさまです。

オレンジ第 35 回定期総会開催

日時：4 月 5 日(土)　10:00～15:00
場所：西諫早公民館
各部事業案検討(2/26,3/12)　　事務局提出(3/20)　　印刷製本(4/1)

新しい仲間の紹介

山下文代です。昨年、秋“きん彩”で高校時代の友人、山下ちず子さんと会い「御館山においで」と誘われ何度かいっしょに歩き初日の出もオレンジの皆さんといっしょに迎えました。ちゃっかりいいとこ取りも申し訳ないと思い、1 月 29 日の九重スキー体験を機に入会することにしました。自分の体力、家庭の状況などみながらできそうな事から参加してみようと思います。　　（諫早市内）

オレンジハイキングクラブを知ったのは三年前の「ナイス」（タウン紙）です。九重指山ハイキング募集があり参加をいたしました。

今は仕事を退職し、これからは私自身至福の時をまた山々での達成感を感じて行きたいとおもいます。色々とお世話になると思いますがよろしくお願いします。

（諫早市内　松田京子）

2014 年 1 月/2 月の山行報告

１月１９日（日）

黒岩山～泉水山

（参加者）中須賀、高森、福岡、山下、野中、松岡、兵庫、鎗水、久保、林(和)、下釜、山口、川原、林(孝)、田村、　　外（本田）　　（計 16 名）

（行　程）西諫早 6:35 ― 7:30 金立ＳＡ7:47 ― 9:00 九重ＩＣ ― 9:10 チェーン装着 9:25 ― 10:15 牧ノ戸峠 10:45 ― 11:00 四阿 ― 11:50 黒岩山 ― 12:00 分岐 (昼食) 12:20 ― 12:50 大崩の辻分岐 ― 13:15 上泉水山 ― 13:50 下泉水山 ― 14:50 長者原 15:05 ― 15:20 筌ノ口温泉 16:00 ― 19:05 西諫早

（感想）今年最初のバス山行だ。天候の心配もなく、楽しい山行になるだろうと期待が持てる。金立ＳＡ近くで日の出となり、真っ赤な太陽に安全登山を願って手を合わせる。

九重ＩＣを降り四季彩ロードにはいると雪景色になり道路も積雪している。道路脇あちこちで車が止まってチェーンを着けようとしている。バスもチェーンを付けることになったが少しトラブリ装着に 15 分余りもかかったろうか、ドライバーさんご苦労様でした。

その後も先頭にノロノロ運転の車がおり、時間はますます超過して牧ノ戸峠には半時間以上の遅れとなる。牧ノ戸峠駐車場は満車であり、一番奥に止めることができたが、くじゅうの人気の高さが良く分かる。しかし登山者は殆どが久住連山の方へ向かっている。

黒岩山はツツジの時期以外はマイナーなのだろうか。

牧ノ戸峠のトイレは男性用の小便器が5個あるにも関わらず1個のみが使用可で4個は禁止になっている。女性用も同様で、行列になり時間がかかる。この寒い時期使用頻度は高くなるので、管理は大変だろうがもうすこし開放して欲しいと思う。

アイゼンの付け方は家で練習して来たのか、かなりスムーズにつけていたが、オーバーズボンを慌てて前うしろ逆にはいた人などがいて、笑えぬハプニングも生じながら出発。

黒岩山へのなだらかな雪道をアイゼン歩行の足慣らしにしながら登って行く。サクサクキュッキュッと雪を踏んで歩くのは気持ちの良いものだ。四阿での温度計はマイナス3度を示している。馬酔木(アシビ、アセビ)の群生する中を山頂を目指す。馬酔木のつぼみだろうか？赤い小さな粒々とそれに付いた白い雪？(それとも霧氷？)が混じり合った色合いがほんわかとした暖かみを感じさせてくれ、登る元気を与えてくれてるようだ。

最近左足は膝を深く曲げて重心をかけると膝にズクッズキンと来る痛みがあり、急な階段の上り下りには苦痛を感じている。今日は左膝にキネシオテープでテーピングをしてきたが、その所為か黒岩山の急登部もさほど苦痛は感じない。テーピングの効果大なりか？。

黒岩山頂も素晴らしい霧氷である。しかしガスがかかっており展望は利かない。カメラマニアの骨接ぎさんは残念がることしきり。

泉水山への途中からガスが一部切れ、三俣山が顔をのぞかせる。時間と共に晴れ間が広がり、東側には、ドッシリと構えた三俣山を中心に平治岳、星生山など雪化粧に覆われたくじゅう連山が姿を現す。素晴らしい眺めである。骨接ぎさん大喜びでシャッターを切りまくっている。おれんじニュース3月号の写真が楽しみだ。

西側には一目山、みそこぶし山、涌蓋山と続いている。10日後に行う「スキー教室」の九重スキー場が合頭山に隠れて見えないのはチョット寂しい気もする。

下泉水からの下りで樹林帯を抜けて中腹をトラバースしていると、左側に一点の汚れもキズもない新雪のように綺麗な廣い雪面が現れる。思わず足を踏み入れたくなる様なパウダー状の雪でサラサラしている。Ｆ会長がシリセードで滑り始めると皆も童心にかえってそれぞれ新たなシュプールを描いて滑り出す。大山冬山訓練参加者が、身体を反転させて滑落停止のデモンストレーションを行う。1回生のM氏に比し2回生のＹ氏は様になっている。キャリヤの差か。確実に冬山登山の技術を身に付けていく会員が頼もしく思える。

時間がなくて大崩の辻へは行けなかったが、雄大なくじゅうの雪景色を堪能し、雪と戯れるなど冬のくじゅうを満喫した幸せな一日でした。

（兵庫　記）

1 月 26 日（日）

島原散策

（参加者）佐原、山口、柳迫、小山、林田、兵庫、林(孝)、中須賀、岩永、田中(紘)、佐藤、森、中野（会員 13 名、他 19 名）

（行　程）諫早駅 8:02―島原駅 9:20―島原城―武家屋敷―姫松屋 12:30―旧島原藩薬園跡 13:30―護国寺（三十番神）14:30―江東寺（涅槃像）―四明壮 15:30―鯉の泳ぐ町―島原駅 16:20―諫早駅 15:28

（感　想）天気は快晴。上々のウォーキング日和。わが故郷に今日はオレンジの皆さんを案内することになっている。うまく案内できるかドキドキ。諫早駅に着くとウォーキングスタイルでオレンジでは見かけない人がたくさん。この人たちも乗り放題 1000 円を利用してのウォーキングかしらとのん気に考えていたら、どうも、われわれオレンジに合流して島原散策をと考えられている様子。列車の中で人数をあたるとオレンジ以外がなんと 17 名。合計 32 名の大所帯になってしまった。島原駅に到着するや人数確認と姫松屋の具雑煮申し込みにテンヤワンヤ。とにかく全員そろって島原城へ。島原城には正門からではなくお堀の中の散策道を通って二の丸に上り、梅園を突き抜けて本丸へ入り込む。梅は花の咲きだしを今か今かと待っている状態。気の早いのがほんのポツンポツンとほころび始めていた。武家屋敷をゆっくり散策し早めの昼食。島原の名物具雑煮を味わう。旧島原薬園跡は雑煮で満腹になった腹ごなしにちょうどいいほどの上り坂をなるべく武家屋敷跡を抜けながら約 40 分ほど歩きたどり着く。島原藩の経済政策のためにも役に立ったという薬園は現在は食べて健康に資することを目的に広報活動にも力を入れてあるという説明を聞くが、残念なことに今は冬で芽を出している薬草はほとんどない。ただ雑草も無く 1 万平方メートルがよく管理されていることは感心した。ここは国指定の史跡として日本でも 3 大薬草園の一つで、その中でもここが一番よく管理されていると案内の方が説明してくださった。時間があれば薬草の料理方法も説明してもらえたようだがパンフをもらって護国寺へと向かう。ところで三十番神とは旧暦のひと月 30 日間を毎日交代で国家と人々を守る日本国内の三十柱の神々を三十番神というとのこと。護国寺の三十番神は蘇生三十番神と呼ばれ、いまから 280 年前に彫刻された着色木造。運よく副住職が出てこられ丁寧に説明をしてくださり、最後には 3 年かけてこれらの 30 柱を修復しているのでどうか 1000 円づつのご寄付を賜りたいとの事。奇特な人も多くかなりの寄付が集まり副住職もご満悦のようで、帰りには手をふって見送ってくださった。最後に鯉の泳ぐ町につくられている湧水庭園、四明壮で楽しいオバチャンの説明を受け一応ここで解散にする。わが故郷もこうして回ってみると捨てたものではなかったが、オレンジのみなさんにとってはどうだったでしょうか。皆さんお疲れ様でした。

(中野　記　文中写真・山口さん)

2月2日（日）

犬ヶ岳

（参加者）川原、福岡、高森、久保(元)、下釜、中須賀、中野、林(和)、田中(静)、
　　國分、林(孝)、山下(ち)、野中、松岡、久保(陽)　外（田中、外山）(17名)

（行　程）　西諫早駅（6　：30）ー杷木IC一野峠登山口（10：25）(発)(昼食30分)
　　一の岳（13：05）ー犬ヶ岳（13：55）（着）ーうぐいす谷入口（16：20）
　　求菩堤側犬ヶ岳登山口（17：10）（着）ー西諫早駅（21：40）（着）

（感　想）

西諫早駅6時30分出発、今にも雨が降りそうな空の中、バスは快調に走る、昨夜の大雨が嘘のように晴れてきた。さすがにオレンジの会員には悪い人はいないようだ。しかし世の中何が起こるかわからない、野峠登山口に着く前にマイクロバスが故障して動かなくなった。前にもこんな事があつたので、北九州から参加された外山さん、田中さんに連絡をとり、登山口まで乗せてもらうことにしました。（ありがとうございました）

何とか野峠に着いてストレッチをして1時間遅れで犬ヶ岳へ出発。

大小のピークを超えながら尾根道を歩く、所々にせまい岩場や、険しい崖も現れ緊張するが変化があって楽しかった。

その後、長い尾根道に入るとアップダウンの連続、道幅も広くなる、木製の腰掛やテーブルもあった。足元は落ち葉がふわふわで心地よい、暖かい日差しを身体に感じ気持よかったが、一つがっかりしたことがあった、それは、古い空き缶や、ビンがちょこちょこ落ちていた事。

一の岳からの見晴らしは良かった。犬ヶ岳山頂にはコンクリート製の避難小屋を兼ねた展望台があったが、樹木に囲まれて眺望はよくなかつた。ここから大日岳にかけては最も多いツクシシャクナゲの群生地で、シーズン中は花を目当ての登山者でにぎわうそうです。笈吊岩を途中まで下ったが、危ないので引き返し迂回路の樹林の中を下りました。

笈吊岩を上から眺めた所。足場は濡れた枝ばかりで危険とみなした。

が、急坂で滑りやすく下るのに苦労しました。

笈吊峠から林道にでて、うぐいす谷を下り求菩提側登山口に下山しました。この道も急坂、石ころ道、足元が濡れていて滑りやすく神経を使いました。

健脚コースでしたが、全員怪我がなくてよかったです。　　(福岡　記)

2 月 7 日(金)～11 日(火)

初めての大山冬山訓練（弥山登山）に参加して

(感想文 1)

県連主催・冬山訓練にオレンジＨＣより 9 名が参加。総勢 33 名が夜行バスに乗り、鳥取県、大山町に到着したのは早朝であった。11 時間のバス旅でやや疲れ気味。早速テント設営、滑落訓練などを行い一日目が終わった。例年以上の積雪、慣れない寒さ、睡眠不足、初めての冬山登山等々で、明日の弥山登山に不安を抱え他のグループへ変更も、と考える等気持ちが揺れていた。

しかし、2 日目、睡眠不足が解消されるや、迷いなく弥山へスイッチが入ることができた。出発！　いざ、弥山へ！先頭の平山氏の踏み跡を登れば、との思いで周囲の雪景色に目をやる余裕なく登って、6 合目の避難小屋に辿り着いた。小屋の中は別世界。温かく、静かで、母親の子宮の中にいるような安らぎを覚えた。

が、それも束の間、出発の声！　小屋の中と打って変わって外は、視界がなく猛吹雪である。行く手を見るとアイスバーン状態。選択の余裕さえなく覚悟を決めなければならなかった。リーダーの川原氏の表情にも緊張感が見てとれた。準備に手間取って朝の出発時間が遅れても優しい眼差しだった川原氏がこの厳しい場に立つと凛々しく、とても大きな存在に見えた。先方と離れないように、また、手と足に集中しながら登る。少しでも止まると体の芯が冷える。まるで映画の世界にいるような気分であった。リーダーの判断により 8 合目で引き返すことになった。アイスバーン状態である。万が一、滑落した場合には昨日訓練した滑落停止の技術を使う自信はない。しかもピッケルはザックの中にある。ストックとアイゼンを頼りにさらに緊張しながら下山を開始した。間の瀬さんが先導、その声が「神の声」に聞こえる。とても有難かった。いくらか不安が和らぎ滑落の危険範囲を脱し 6 合目までたどり着いた。後は緊張もいくらか解れ、白と黒の墨絵の世界や樹氷の世界に歓声を上げたり、童心にかえって尻滑りしながらあっという間に下山できた。心に焼き付いた一生忘れられない思い出になることだろう。

しかし、今回は、楽しいことよりも、山の厳しさ、チームの連携の大切さ、リーダーの重責・存在の大きさを考えた冬山登山であった。本当に皆さんに支えられて実現できた冬山登山であったと思う。厳しい山程成長できることをも実感した。

また、初めての冬山登山ということもあり、事前訓練、服装・装備の準備、出発前の準備などありとあらゆることで、山下さん、鎗水さんにはいつも気にかけて頂きとても感謝しております。準備がいかに大切か、ということも思い知らされました。これからは、さらに経験を積んでスキルアップに精進して行きたいと思います。県連の皆様にも大変お世話になり有難うございました。　　(林　和子　記)

（感想文 2）
圧倒的な雪又雪の白装束に対して山の樹々は緑というより黒のイメージ。今回は山陰のあたかも水墨画をみるようで日本古来の雪景色を堪能する事ができました。
大山も 2 回目。自分達弥山組は旅館を 7 時半に出発。テント班と合流し、音も無く降りしきる雪を背に一歩ずつゆっくり登って行きました。3 合目付近でアイゼン装着。6 合目の避難小屋まで辿りつきました。ここから先は風も強くなり傾斜も急で雪山の厳しさを感じられました。視界もそこそこだったので「この調子なら頂上まで」と甘い思いがよぎったのですが結局 8 合目手前で撤退という事になり全員無事下山しました。
　今回、これといった失敗も無かった自分でありますが、大山登頂に向けて御館山で毎日「一日 1 アイゼン」と、装着練習に努めたのに今回はいざ下山という時になって片一方のアイゼンの主軸が前後で外れるというアクシデントに見舞われました。吹雪いてる中ではなかなか修理もかなわず結局片足アイゼンで下山するはめになりました。間ノ瀬さんから踵に力を入れて下りる様に教えてもらいました。非常にこわかったけど無事車道に下りた時はホッとしました。今回も側を行く福岡さんの目が何か笑っているように見えて少し気になりました。
　しかし今回の山行で一番かわいそうだったのはオレンジの人気者下釜さんだとおもいます。彼女は出発したバスのなかから激しく咳をしだし一日目の訓練で完全に体調をこわしたみたいです。二日目は皆がそれぞれのコースへ出かけるのを見送り米子の休日当番の病院を探してでかけたそうです。幸い症状はたいしたことなく、熱もさがっていたみたいです。ただ、この病原菌は比較的感染力が強く、帰りのバスの中では田中さんと山下さんが二人して咳を合唱してたのでいずれ本格的に発病したのは言うまでも有りません。
自分は前後に病み人をかかえても風邪ひとつひかず〇〇は風邪ひかないのたとえどおりなのです。この健朗な身体を武器に来年こそは弥山に登頂したいものだと思いました。(松岡記)

2 月 16 日（日）

講演会「八甲田山 死の雪中行軍に学ぶ」

　新田次郎の小説「八甲田山死の彷徨」で知られるようになった 100 余年前の山岳遭難事故で、生還した弘前第 31 連隊を率いた福島大尉のお孫さんである倉永氏が諫早市の多良見町に住んでおり、2/16 お話をうかがいました。
　八甲田山はシベリア方面からの寒気の通り道になっており、日本で最も寒く雪深い所だそうである。
　当時緊迫した国際情勢が背景にあり、それに対応するために八甲田山で雪中行軍の訓練を行ったのであるが、青森第 5 連隊 210 名がほぼ全滅、逆方向から踏破した弘前第 31 連隊の 37 名は全員無事生還すると言う、対照的な結果になった。
　両隊を比較した場合、決して偶然に明暗を分けたのではなく、様々な点で弘前隊が細心の準備をし、リーダー育成と言う明確な目的を持って下士官以上の精鋭に絞り込んだのに対し、青

森隊は単に自力で踏破したと言う実績作りの為に、事前の研究不足・準備不足の中で急ごしらえの編成で臨んだと言う違いがあったようであり、青森隊の遭難は必然的なものではなかろうか。

私たちの登山も同様で、事前調査と装備などの充実及び日々のトレーニングが重要である。

余談ながら、喜々津は昔は木々津であり秀吉が喜々津と名付けたとの事。また、喜々津は日本に最初に人類が住み着いた場所だと言った事が、平成に入って発掘調査で分かったとの話しもありました。

（鎗水　記）

大山の記録・・・雪・雪・雪の三日

訓練１日目・テント設営

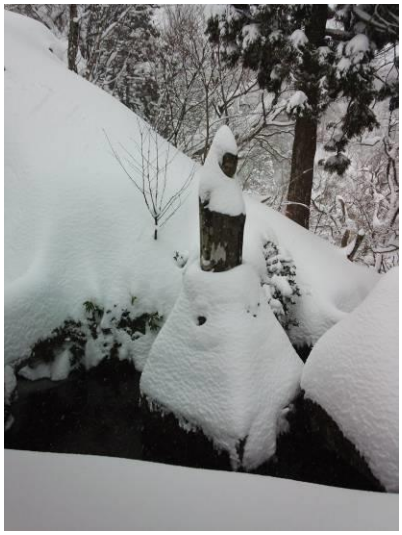
野営の女子トイレを掘ってる川原氏

訓練２日目大神神社を歩く

訓練３日目雪洞堀＆ビーコン体験

雪の中をゾンデ棒でつつく

雪の中の眠れる美女



おれんじニュースNo288	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2014.2.26
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com/

寒い毎日がつづいていますね。そろそろ春の花のニュースが欲しい時期ですがさて、仰鳥帽子山では雪の中から福寿草が顔をのぞかせてくれるでしょうか？自然界はまず黄色の花から開花しますね。次回は花のニュースをお楽しみに！(山下)